

# むきぼんだ花だよ！

12月

2015. 12. 05



ガマズミ

## レンブクソウ科ガマズミ属

果実は核果。  
長さ6~9mmの広卵形で、9~10月に赤く熟す。  
核は長さ4~6mmの卵球形、5個の稜がある。

## バラ科キイチゴ属

果実は集合果。  
直径約1cmの球形で、11月~1月頃赤く熟す。  
花期は9~10月。



フユイチゴ

## ニシキギ科ツルウメモドキ属

果実は核果。  
長さ6~9mmの広卵形で、9~10月に赤く熟す。  
核は長さ4~6mmの卵球形、5個の稜がある。



ツルウメモドキ

## クスノキ科ハマビワ属

冬芽の葉芽は紡錘形で長さ7~15mm、先端は長く尖り、葉状の大きな芽鱗に包まれる。  
花芽は直径3mmほどのやや扁平な球形。葉のわきに多数下を向いてつく。  
柄は湾曲し長さ約1cm。葉痕は半円形~三日月形で隆起する。



アオモシ



## カバノキ科ハンノキ属

冬芽は、長さ1~1.5cmの披針形。  
芽鱗は3~4個。  
雄花序の冬芽は雌花序より下につく。  
葉痕は三角形。



カラスザンショウ



オオバヤシブ

## ミカン科サンショウ属

冬芽は長さ4~8mmの半球形またはいぼ状。  
芽鱗は無毛。  
葉痕は腎臓形またはハート形。  
維管束痕は3個。



イワガラミの気根  
気根とは空中にのび出した根で、植物体を支持し、ときには空気中の湿気を吸収する役をもつ。  
不定根とも付着根ともよばれる。

# よく間違えるので整理して見ました

万両・千両・百両・十両・一両の実は、何れも秋から冬に赤熟し、その赤い実も小粒です。そのため古来、これらの赤い実を付けた植物は、お正月の縁起物としてもてはやされてきました。



## ●アリドオン

(蟻通し：アカネ科) 別名：一両  
鋭いトゲをもち、秋に赤い小さな実を付ける。名前は、このトゲが蟻をも突き通すという説と、実が翌年まで持つので「ありどほし」という説がある。

## ●ヤブコウジ

(藪柑子：ヤブコウジ科) 別名：十両  
茎は枝分かれせず地下茎でふえていき、夏に小さな白花を咲かせて径5mmほどの実をまばらに付け、晩秋から冬にかけて赤く色づきます。葉は長さ10cmほどの長円形で、フチにはギザギザが入ります。

## ●カラタチバナ

(唐橘：ヤブコウジ科) 別名：百両  
茎常緑の小低木でほぼ直立し、ほとんど枝分かれせず高さ20cm〜70cmほどになります。日の余り当たらない林床に生育します。花は、夏に、径7mm前後の白い小さな花を葉腋に数個房状につけます。花冠は5深裂して裂片は反り返ります。果実は、晩秋から早春に鮮赤色に熟し、茎の中程に房状に多くつけ、径6mmほどの球形でよく目立ちます。

## ●クササンゴ

(草珊瑚：センリョウ科) 別名：千両  
センリョウ(千両)はマンリョウ(万両)と並んで正月飾りに欠かせない縁起木のひとつで、主に冬に色づく赤や黄色の実を鑑賞します。葉の上に赤い実をつけるのがセンリョウです。

## ●マンリョウ

(ヤブタチバナ：クサコウジ科) 別名：万両  
冬に付ける光沢のある赤い果実と緑色のコントラストが美しく、「万両」という、いかにもたくさんのお金をほうふつとさせる名前で、正月用の縁起木として親しまれています。幹は根元で枝分かれせずまっすぐ上に伸び、先の方で小枝をまばらに出します。



### ★むきばんだを歩く会★

- 指導： 鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第1土曜日午前9時30分〜正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」